

Acronis



Acronis Backup 11.7 Update 1

該当する製品

For Windows Server
For PC

インストール ガイド

目次

1 インストールする前に	3
1.1 試用モードでの製品の使用について	3
1.2 Acronis Backup および Acronis Backup Advanced のライセンス	4
1.3 Acronis Backup コンポーネント	6
1.3.1 エージェント for Windows	6
1.3.2 管理コンソール	8
1.3.3 ブータブル メディア ビルダ	8
1.4 サポートされるオペレーティング システム	8
1.5 システム要件	9
2 Acronis Backup のインストール	10
2.1 準備	10
2.2 Acronis Backup の対話型インストール	11
2.2.1 インストールの種類	11
2.2.2 Acronis サービスのログイン情報の指定	12
2.3 無人インストール	13
2.4 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ	16
2.5 アップデート	18
3 Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へのアップグレード	19
4 ソフトウェアのアップデートの確認	21
5 アンインストール	22
5.1 対話型アンインストール	22
5.2 無人アンインストール	22
5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除	23

1 インストールする前に

このセクションでは、製品のインストール前に生じることが予想される疑問点について説明します。

1.1 試用モードでの製品の使用について

Acronis Backup のライセンスを購入する前に、ソフトウェアを試してみることが可能です。試用版は、プロダクト キーなしで使用できます。

試用モードで製品をインストールするには、セットアップ プログラムをローカルで実行するか、リモート インストール機能を使用します。無人インストールとその他のインストール方法は、サポートされていません。

試用モードの制限

Acronis Backup を試用モードでインストールする場合、次のような制限事項があります。

- Universal Restore 機能は無効になっています。

ブータブル メディアに関するその他の制限事項は次のとおりです。

- ディスク管理機能は使用できません。ユーザー インターフェイスを試用することはできませんが、変更を適用するオプションはありません。
- 復元機能は使用できますが、バックアップ機能は使用できません。バックアップ機能を試用するには、本ソフトウェアをオペレーティング システムにインストールしてください。

完全モードへのアップグレード

試用期間が終了すると、製品の GUI にプロダクト キーを指定または取得するように求める通知が表示されます。

プロダクト キーを指定するには、**[ヘルプ]** > **[ライセンスの変更]** をクリックします。セットアップ プログラムを実行することによってプロダクト キーを指定することはできません。

クラウド バックアップ サービスの試用サブスクリプションをアクティブ化するか、サブスクリプションを購入した場合、プロダクト キーを指定しているかどうかに関係なく、サブスクリプションの有効期限が切れるまでクラウド バックアップを利用できます。

1.2 Acronis Backup および Acronis Backup Advanced のライセンス

Acronis Backup 製品ファミリおよび Acronis Backup Advanced スイートのライセンスは、その製品によるバックアップ対象のコンピュータ数に基づいています。ライセンスは、バックアップ対象となる物理コンピュータごとに必要です。

次の表は、製品とその主な機能の一覧です。

製品	ディスクおよびファイルのバックアップ	集中管理	重複除外	テープへのバックアップ	アプリケーションのバックアップ
Acronis Backup for Windows Server	+	-	-	-	-
Acronis Backup for Linux Server	+	-	-	-	-
Acronis Backup for PC	+	-	-	-	-
Acronis Backup for Windows Server Essentials	+	+	+	+	すべてサポート*
Acronis Backup Advanced for Windows Server	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for Linux Server	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for PC	+	+	+	+	-
Acronis Backup Advanced for Exchange	+	+	+	+	Exchange

製品	ディスクおよびファイルのバックアップ	集中管理	重複除外	テープへのバックアップ	アプリケーションのバックアップ
Acronis Backup Advanced for SQL	+	+	+	+	SQL
Acronis Backup Advanced for SharePoint	+	+	+	+	SQL、SharePoint
Acronis Backup Advanced for Active Directory	+	+	+	+	Active Directory
Acronis Backup Advanced for VMware / Hyper-V / RHEV / Citrix XenServer / Oracle VM	+	+	+	+	すべてサポート*

*サポートされるアプリケーション: Microsoft Exchange Server、Microsoft SQL Server、Microsoft SharePoint、および Microsoft Active Directory。

集中管理機能を備えていない製品は、単一のコンピュータのデータをバックアップするためのものです。どの製品も、すべてのコンポーネントが同じコンピュータ上にインストールされます。インストール時にプロダクト キーを入力する必要があります。

Acronis Backup Advanced スイートは、複数のコンピュータをバックアップするためのものです。これらの製品には、バックアップ対象のコンピュータにインストールする必要があるコンポーネントに加え、集中管理を可能にする管理サーバー、およびバックアップしたデータを保存するためのストレージ ノードが含まれています。これらの追加のコンポーネントの使用にライセンスは必要ありません。たとえば、ストレージ ノードは最大 50 までの必要な数をインストールすることが可能です。

ライセンスが必要なコンポーネント (エージェント) のインストール中、ライセンス サーバーを指定するか、手動でプロダクト キーを入力することができます。特定の製品のライセンスまたは Acronis Backup Advanced Universal License を使用してください。このライセンスでは、1 台の物理コンピュータとその物理コンピュータで実行されている任意の数の仮想コンピュータに、すべての Acronis Backup Advanced 製品をインストールできるようになります。

ネットワークを構成するサーバーが 1 台だけでワークステーションが複数の場合は、Acronis Backup for Windows Server Essentials をお勧めします。この製品をサーバー上で使用し、Acronis Backup Advanced for PC をワークステーション上で使用すると、すべてのコンピュータを集中管理できます。ドキュメントでの Acronis Backup Advanced の機能に関する説明のほとんどは、Acronis Backup for Windows Server Essentials にも当てはまります。

その他の Acronis Backup 製品のコンポーネントは、Acronis Backup Advanced のコンポーネントとは連携しません。

1.3 Acronis Backup コンポーネント

ここでは、Acronis Backup のコンポーネントとその機能の概要について説明します。

管理対象のコンピュータ用のコンポーネント（エージェント）

これらは、Acronis Backup によって管理されるコンピュータ上でデータのバックアップ、復元、その他の処理を実行するアプリケーションです。各管理対象のコンピュータ上でエージェントが処理を実行するにはライセンスが必要です。

コンソール

コンソールには、エージェントに対するグラフィカル ユーザー インターフェイスがあります。コンソールの使用にライセンスは必要ありません。コンソールは、エージェントとともにインストールされ、エージェントから切断することはできません。

ブータブル メディア ビルダ

ブータブル メディア ビルダを使用して、エージェントや他のレスキュー ユーティリティをレスキュー環境で使用するためのブータブル メディアを作成することができます。ブータブル メディア ビルダは、エージェントとともにインストールされます。

1.3.1 エージェント for Windows

このエージェントを使用して、Windows の下でディスク レベルおよびファイル レベルでデータを保護することができます。

ディスクのバックアップ

ディスク レベルでのデータ保護は、ディスク全体またはボリューム ファイル システム全体と、オペレーティング システムの起動に必要なすべての情報のバックアップ、または、セクタ単位のバックアップを使用したすべてのディスク セクタのバックアップ (RAW モード) を基にしています。ディスクまたはボリュームのコピーがパッケージ化された状態で格納されているバックアップを、ディスク (ボリューム) バックアップまたはディスク (ボリューム) イメージと呼びます。これらのバックアップからはディスクまたはボリュームの全体を復元することも、個別のフォルダやファイルを復元することもできます。

ファイルのバックアップ

ファイル レベルでのデータ保護は、エージェントがインストールされているコンピュータ、またはネットワーク共有上にあるファイルおよびフォルダのバックアップに基づいています。ファイルは、元のロケーションにも他のロケーションにも復元できます。バックアップしたすべてのファイルおよびフォルダを復元することもできれば、一部のみを選択して復元することもできます。

その他の操作

仮想コンピュータへの変換

エージェント for Windows による変換では、ディスク バックアップが VMware Workstation、Microsoft Virtual PC、Citrix XenServer Open Virtual Appliance (OVA)、または Red Hat Kernel-based Virtual Machine (KVM) のいずれかの種類の新しい仮想コンピュータに復元されます。設定済みで使用可能なコンピュータのファイルは、選択したフォルダに保存されます。それぞれの仮想ソフトウェアを使用してコンピュータを起動するか、他の用途のためにコンピュータのファイルを準備することができます。

異なるハードウェアへの復元

エージェントがインストールされているコンピュータ上で異なるハードウェアの復元機能を使用して、この機能を備えたブータブル メディアを作成することができます。Acronis Universal Restore は、ストレージ コントローラ、マザーボード、チップセットなどの、オペレーティング システムの起動にとって重要なデバイスの相違に対応します。

ディスクの管理

エージェント for Windows には、Acronis Disk Director Lite (使いやすいディスク管理ユーティリティ) が用意されています。ディスクのクローン作成、ディスクの変換、ボリュームの作成、ボリュームのフォーマット、ボリュームの削除などのディスク管理操作、および MBR と GPT の間のディスクパーティションスタイルの変更、ディスクラベルの変更などの操作は、オペレーティングシステムで実行するかブータブルメディアを使用して実行することができます。

1.3.2 管理コンソール

Acronis Backup 管理コンソールは、Acronis Backup エージェントにローカルでアクセスするための管理ツールです。エージェントにはリモート接続できません。

1.3.3 ブータブルメディアビルダ

Acronis ブータブルメディアビルダは、ブータブルメディアを作成するための専用のツールです。Windows 上にインストールするメディアビルダは、Windows プレインストール環境、または Linux カーネルをベースにしたブータブルメディアを作成できます。

1.4 サポートされるオペレーティングシステム

重要: このサポートの詳細と制限事項については、「Windows 8 と Windows Server 2012 のサポート」を参照してください。

Acronis Backup 管理コンソール、Acronis Backup エージェント for Windows

Acronis Backup for Windows Server

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Server 2003 SP1+/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003 SP1+/2003 R2

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows 8/8.1 - Windows RTエディションを除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2/2016

Windows 10 - Home、Pro、Education、Enterprise、IoT Enterpriseの各エディション

Windows Server 2016: Nano Server以外のすべてのインストールオプション
エージェントへのリモート接続はできません。

Acronis Backup for PC

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1 - Windows RTエディションを除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 10 - Home、Pro、Education、Enterprise、IoT Enterpriseの各エディション

エージェントへのリモート接続はできません。

1.5 システム要件

Windows にインストールされる製品

必要なディスク領域の合計を計算するには、インストールを計画しているコンポーネントについて、表の 3 番目と 4 番目の列に指定されている値を加算します。

製品	メモリ (OS および実行中のアプリケーションに加えて必要な容量)	インストールまたはアップデートに必要なディスク領域	コンポーネントが使用するディスク領域	その他
Acronis Backup for Windows Server (完全インストール)	420 MB	2.6 GB	2.4 GB	画面解像度 800 x 600 ピクセル以上
Acronis Backup for PC (完全インストール)	420 MB	2.9 GB	2.4 GB	
ブータブル メディア ビルダ (Windows)	480 MB	1.3 GB	930 MB	

ブータブル メディア

メディアの種類	メモリ	ISO イメージ サイズ	その他
Windows PE ベース	1 GB	410 MB	
Linux ベース (32 ビット)	512 MB	130 MB	
Linux ベース (64 ビット)	1 GB	175 MB	

2 Acronis Backup のインストール

このセクションでは、製品のインストール時に生じることが予想される疑問点について説明します。

2.1 準備

ネットワーク ポート: Acronis Backup では、ローカルのインストールおよびコンポーネント間の通信に TCP ポート **9876** を使用します。このポートは、セットアップ プログラムにより Windows ファイアウォールを経由して自動的に開かれます。別のファイアウォールを使用している場合は、そのファイアウォール経由の受信要求と送信要求の両方に対して必ずこのポートを開いてください。

暗号化ソフトウェア:PGP Whole Disk Encryption などのディスクレベルの暗号化ソフトウェアを使用する予定がある場合は、必ずそのソフトウェアを Acronis Backup のインストール前にインストールしてください。

2.2 Acronis Backup の対話型インストール

1. 管理者としてログオンし、Acronis Backup セットアップ プログラムを起動します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約の内容に同意します。
4. インストールの種類（試用または完全）『11ページ』を選択します。
5. 製品のインストール先フォルダを指定します。
6. エージェント サービスを実行するアカウントのログイン情報を指定します。デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービス専用のユーザー アカウントが作成されます。「Acronis サービスのログイン情報の指定 『12ページ』」で **Acronis Agent User** アカウントに関する情報を表示します。
7. コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム（CEP）に参加させるかどうかを選択します。

概要ウィンドウには、以前に入力されたプロダクト キーに応じてインストールされるコンポーネントの一覧が表示されます。

注意: インストール手順をキャンセルすると、最後のコンポーネントのみが削除されます。他のコンポーネントがある場合は、インストールされたままになります。

2.2.1 インストールの種類

プロダクト キーまたはクラウド バックアップ サブスクリプションがある場合は、完全インストール モードを選択します。いずれもない場合は、試用モードを選択します。

試用モードでのインストール

[無料の試用版の開始を希望します] を選択します。

試用モード 『3ページ』で製品がインストールされます。

完全モードでのインストール

1. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
2. プロダクト キーがない場合は、入力するか、テキスト ファイルからインポートします。それ以外の場合は、この手順をスキップします。
3. サブスクリプションがない場合、既にサブスクリプションを登録した場合、またはコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、この手順を省略します。それ以外の場合は、以下の手順を実行します。
 - a. サブスクリプション登録コードを入力するか、テキスト ファイルからインポートします。
 - b. Acronis アカウント資格情報を入力します。Acronis アカウントがない場合は、**[アカウントの作成]** をクリックして、アカウント作成フォームを入力します。
4. 手順 2 および 3 を省略した場合は、**[...のバックアップのライセンス]**で **[クラウド バックアップのみ: ライセンスは不要です]** を選択します。

2.2.2 Acronis サービスのログイン情報の指定

Acronis Backup は、Acronis Managed Machine Service (**エージェント サービス**) を使用します。Acronis Backup をインストールするとき、そのサービスを実行するアカウントを指定する必要があります。

専用のユーザー アカウントを作成するか、ローカル ユーザーまたはドメイン ユーザーの既存のアカウントを指定できます。たとえば、**¥LocalUser** や **DomainName¥DomainUser** のように指定します。

デフォルトでは、セットアップ プログラムによってサービス専用の新しいアカウントが作成されます。

どういった場合に既存のアカウントを選択するか

新しいアカウントはほとんどの場合に適合します。既存のアカウントを指定する必要があるのは、Active Directory ドメインのドメイン コントローラに製品をインストールするときです (Windows Server オペレーティング システムをサポートする製品の場合)。この制限は、ドメインの通常のメンバには適用されません。

アカウントに対する権限

アカウントには（既存のものでも新しく作成されたものでも）、次の権限が与えられます。

- アカウントは、**Backup Operators** グループ内に含まれます。
サービスに対する [新規作成] アカウントは、**Administrators** グループにも含まれません。セキュリティ上の理由から、セットアップ プログラムでは、既存の アカウントをこのグループに自動的に含めることはありません。
- このアカウントに、フォルダ **%PROGRAMDATA%\Acronis** (Windows XP および Server 2003、**%ALLUSERSPROFILE%\Application Data\Acronis**) およびそのサブフォルダで **[フル コントロール]** 権限が付与されます。
- このアカウントは、HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Acronis キーのレジストリ キーに対する **[フル コントロール]** 権限を付与されます。
- アカウントには、**サービスとしてログオン、プロセスのメモリ クォータの増加、プロセス レベル トークンの置き換え、およびファームウェアの環境値の修正**のユーザー権限が与えられます。

高度な使用に関するヒント

- 新しいアカウントの名前は、**Acronis Agent User** になります。
- コンピュータが Active Directory ドメインの一部である場合は、既存のアカウントまたは新規に作成されたアカウントへの上記のユーザー権限の付与がドメインのセキュリティ ポリシーによって妨げられないようにしてください。
- インストールの後に、サービスに別のアカウントを指定しないでください。別のアカウントを指定すると、製品が動作を停止する可能性があります。別のアカウントを指定する必要がある場合は、新しいアカウントに上記の権限が付与されることを確認してください。

2.3 無人インストール

Acronis Backup のコンポーネントは、対話型モードの他に、無人モードでもインストールすることができます。

トランスフォーム (.mst ファイル) と呼ばれるファイルを必要とするコンポーネントもあります。他のコンポーネントではトランスフォームの使用はオプションです。

次の表に、無人モードでインストールまたはアップデートできるコンポーネントを示します。

コンポーネント名	msi ファイル名	トランスフォームの必要性
エージェント コア	AcronisAgentCore.msi	+
エージェント for Windows 『6ページ』	AcronisAgentWindows.msi	+
ブータブル メディア ビルド 『8ページ』	AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi	-
管理コンソール 『8ページ』	AcronisManagementConsole.msi	-

準備

コンポーネントで使用されるトランスフォームを作成するには、コンフィギュレーションスクリプト `mst_gen.vbs` が必要です。

このスクリプトは、Acronis Backup 管理コンソールがインストールされているフォルダにあります。デフォルトのフォルダ パス:

- `%ProgramFiles%\Acronis\BackupAndRecoveryConsole` 32 ビット Windows の場合
- `%ProgramFiles(x86)%\Acronis\BackupAndRecoveryConsole` 64 ビット Windows の場合

インストールの順序

最初に管理コンソールをインストールします。エージェントをインストールする場合、最初にエージェント コア コンポーネント、次にエージェント自体をインストールします。

インストール手順

コンポーネントを無人モードでインストールまたはアップデートする手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを開始します。
2. [インストール ファイルの取り出し] をクリックします。
3. コンポーネントのインストール パッケージを取り出します。
4. トランスフォームを使用するコンポーネントをインストールする場合、コンフィギュレーション スクリプトを実行して、トランスフォームを作成します。それ以外の場合は、この手順をスキップします。

たとえば、次のようになります。

- 次のコマンドでは、エージェント コア コンポーネントをインストールするためのトランスフォームが作成されます。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentCore.msi
```

- 次のコマンドは、プロダクト キー ABCDE-54321 を使用して エージェント for Windows をインストールするトランスフォームを作成します。

```
mst_gen.vbs /msi_path C:\AcronisAgentWindows.msi /serial ABCDE-54321
```

コンフィギュレーション スクリプトの構文の詳細は、「コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ 『16ページ 』」をご参照ください。

5. 次のいずれかの方法を使用して、コンポーネントをインストールまたはアップデートします。

- コンポーネントをインストールする場合、次のように Windows インストーラ (**msiexec** プログラム) を実行します。

トランスフォームを使用するコンポーネント (この例では、エージェント for Windows) をインストールする場合:

```
msiexec /i c:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=AcronisAgentWindows.mst /qb
```

それ以外の場合 (この例では、管理コンソールをインストール) :

```
msiexec /i c:\AcronisManagementConsole.msi /qb
```

- コンポーネントをアップデートする場合は、次のように Windows Installer を実行します。

トランスフォームを使用するコンポーネント（この例では、エージェント for Windows）をアップデートする場合:

```
msiexec /i C:\AcronisAgentWindows.msi TRANSFORMS=C:\AcronisAgentWindows.mst  
ADDLOCAL=ALL /qb
```

それ以外の場合（この例では、管理コンソールをアップデート）:

```
msiexec /i C:\AcronisManagementConsole.msi ADDLOCAL=ALL /qb /l*v C:\log.log
```

2.4 コンフィギュレーション スクリプトのパラメータ

コンフィギュレーション スクリプト `mst_gen.vbs` は、Acronis コンポーネント（Acronis Backup エージェント for Windows など）の `.mst` インストール パッケージ ファイル（トランスフォーム、変更、または変更ファイルとも呼ばれます）を作成します。

インストール パッケージとともにトランスフォームを使用すると、コンポーネントを無人モードでインストールできます。

コンフィギュレーション スクリプトの完全な構文を次に示します。

`mst_gen.vbs`

`/msi_path` <フル パス>

`[/target_dir` <インストール フォルダ>

`[/account` <ユーザー名> <パスワード>]

`[/cep_enabled]`

`{/serial` <プロダクト キー> `[/old_serial` <以前のプロダクト キー> }

`[/current_user]`

角括弧 ([]) は、そのパラメータがオプションであること、または一部のコンポーネントにのみ適用されることを表します。波かっこ ({ }) は、パラメータが相互に排他的であることを表します。この場合、パラメータの各セットはパイプ (|) で区切られます。

ここでは、各パラメータと、パラメータを適用するコンポーネントについて説明します。

あらゆるコンポーネントに適用されるパラメータ

`/msi_path` <フル パス>

コンポーネントのインストール パッケージのフル パスを指定します。

`D:¥folder¥AcronisAgentWindows.msi` などのローカル パス、または

¥server¥folder¥AcronisAgentWindows.msi などの汎用名前付け規則 (UNC) のパスを入力します。

/target_dir <インストール フォルダ>

コンポーネントのインストール先フォルダを指定します。

このパラメータを指定しなかった場合、コンポーネントはデフォルト フォルダ %ProgramFiles%¥Acronis (Windows の 32 ビット版) 、または %ProgramFiles(x86)%¥Acronis (Windows の 64 ビット版) にインストールされます。

エージェント コア コンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisAgentCore.msi にのみ適用されます。

/account <ユーザー名> <パスワード>

コンピュータで Acronis Managed Machine Service を実行するユーザー アカウントのユーザー名とパスワードを指定します。このユーザー アカウントには適切な権限が必要です (「Acronis サービスのログイン情報の指定 [12ページ]」を参照してください)。ドメイン名とアカウント名は **mydomain¥User** のように円記号で区切ります。

このパラメータを使用しない場合、サービスはデフォルトのアカウント (**Acronis Agent User**) で実行されます。

/cep_enabled

コンピュータを Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP) に参加させるかどうかを指定します。

このパラメータを指定すると、ハードウェア構成、使用頻度の最も高い機能と最も低い機能、および問題に関する情報が自動的にコンピュータから収集されて、定期的に Acronis に送信されます。参加条件は、カスタマ エクスペリエンス プログラム ウェブページで確認できます。

このパラメータを指定しないと、情報は送信されません。

ライセンスを必要とするコンポーネントにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージの AcronisAgentWindows.msi にのみ適用されます。

/serial <プロダクト キー>

コンポーネントのインストール時に使用するプロダクト キーを指定します。プロダクト キーは、ダッシュで区切られた一連の英数字です。プロダクト キーはダッシュも含めて正確に入力してください。

/old_serial <以前のプロダクト キー>

Acronis Backup & Recovery 10 または 11 からアップグレードする際に、その製品のプロダクト キーを指定します。このパラメータは **/serial** パラメータとともに使用します。

注意 **/serial** パラメータが指定されていない場合、エージェントはクラウド バックアップ専用でインストールされます。

管理コンソールにのみ適用されるパラメータ

次のパラメータは、インストール パッケージ AcronisManagementConsole.msi にのみ適用されます。

/current_user

コンポーネントを、コンピュータ上のすべてのユーザー用にインストールするのではなく、現在のユーザー用のみにインストールする場合に指定します。

2.5 アップデート

Acronis Backup コンポーネントを 1 つ以上アップデートする手順は、次のとおりです。

1. アップデートされたバージョンの Acronis Backup のセットアップ プログラムを実行します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. **[アップデート]** をクリックします。
4. メッセージが表示されたら、製品のプロダクト キーを入力します。
5. 画面の指示に従います。

無人モードでのコンポーネントのアップデート

無人モードでコンポーネントをアップデートする詳細については、「無人インストール 『13 ページ 』」を参照してください。

3 Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へのアップグレード

ライセンスの購入

アップグレードの前に、Acronis Backup のアップグレードを計画しているコンピュータごとに Acronis Backup Advanced のライセンスを購入してください。ライセンスの名前は、コンピュータに現在インストールされている製品に応じて異なります。

インストールされている製品	アップグレードに適しているライセンス
Acronis Backup for Windows Server	Acronis Backup Advanced for Windows Server
Acronis Backup for Linux Server	Acronis Backup Advanced for Linux Server
Acronis Backup for PC	Acronis Backup Advanced for PC

購入後、プロダクト キーが記載された電子メールがお手元に届きます。

製品のアップグレード

Acronis Backup から Acronis Backup Advanced へアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順 1: ライセンスの変更

Acronis Backup をアップグレードするコンピュータごとに、次のようにライセンスを変更します。

1. Acronis Backup を実行します。
2. **[ヘルプ]** メニューで **[ライセンスの変更]** をクリックします。
3. **[ディスク/ファイルのバックアップのライセンス]** の右側にある **[変更]**、**[変更]** の順にクリックして、次に **[使用するプロダクト キー]** をクリックします。
4. このコンピュータの新しいプロダクト キーを入力します。
5. **[OK]** をクリックして新しいライセンスを適用し、警告メッセージで **[はい]** をクリックしてから、**[OK]** をクリックします。

以前にコンピュータに割り当てられたライセンスは取り消され、管理コンソールが再起動されます。これで、管理コンソールをリモート コンピュータに接続し、リモート ロケーションからこのコンピュータに接続することができるようになります。

手順 2: セットアップ プログラムのダウンロード

<http://kb.acronis.com/content/1642> (英語) の説明に従って、Acronis ウェブ サイトから Acronis Backup Advanced のセットアップ プログラムをダウンロードします。

手順 3: 管理サーバーのインストール

Windows を実行しているコンピュータに Acronis Backup 管理サーバーをインストールします。コンピュータのシステム ディスクに少なくとも 8 GB の RAM と 4.5 GB の空き領域が必要です。

製品をアップグレードしたコンピュータの 1 つに管理サーバーをインストールすることをお勧めします。これを行うための手順は、次のとおりです。

1. セットアップ プログラムを実行し、**[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
2. 使用許諾契約の内容に同意し、**[変更]** をクリックします。
3. コンポーネント ツリーで、**[管理サーバー]** を選択します。
4. 画面の指示に従います。ほとんどの場合、デフォルトの設定のままにします。

大規模な環境では、専用の物理サーバーまたは仮想サーバーを設定することをお勧めします。詳細については、Acronis Backup Advanced のインストールに関するドキュメントを参照してください。

手順 4: 管理サーバーへのアップグレード済みコンピュータの追加

1. 製品がアップグレードされた任意のコンピュータで、Acronis Backup を実行します。
2. **[管理サーバーへの接続]** をクリックし、サーバーの名前または IP アドレスを入力します。資格情報の入力が必要の場合は、管理サーバーの **Acronis Centralized Admins** グループおよび **Acronis Remote Users** グループのメンバーであるユーザーのユーザー名とパスワードを指定します。
3. **[ナビゲーション]** ツリーで  **[エージェントがインストールされているコンピュータ]** を選択します。

4. ツールバーの  [複数のコンピュータの追加] をクリックします。
5. 次のいずれかの方法で、アップグレードされたコンピュータを追加します。
 - アップグレードされたコンピュータの名前または IP アドレスを指定する。
 - ネットワークを参照する。
 - アクティブ ディレクトリ ドメインを参照する。
 - .txt ファイルまたは .csv ファイルからコンピュータの一覧をインポートする。

詳細については、Acronis Backup Advanced のインストールに関するドキュメントの「コンピュータの一覧の指定」セクションを参照してください。

高度な使用に関するヒント

追加されたコンピュータは、管理サーバーの [エージェントがインストールされているコンピュータ] ビューに表示されます。

そのコンピュータのバックアップ計画は変更されません。管理サーバーでバックアップ計画を表示するには、コンピュータの名前を右クリックし、[詳細の表示] > [バックアップの計画およびタスク] を選択します。製品がバックアップを継続するため、アップグレードの前に作成されたバックアップから復元できます。

これで、複数のコンピュータを同時に 1 つのロケーションにバックアップする集中管理用バックアップ計画を作成することができます。

4 ソフトウェアのアップデートの確認

管理コンソールを開始するたびに、Acronis Backup によって、Acronis ウェブ サイトにソフトウェアの新しいバージョンがあるかどうかを確認されます。新しいバージョンが見つかった場合、新しいバージョンのセットアップ プログラムをダウンロードするためのリンクが提供されます。

アップデートを手動で確認するには、管理コンソールを開始し、[ヘルプ] > [更新の確認] をクリックします。このウィンドウで、アップデートの自動確認を無効にすることもできます。

Acronis Backup のアップデートの詳細については、「アップデート」セクション『18ページ』を参照してください。

5 アンインストール

5.1 対話型アンインストール

Acronis Backup をアンインストールする場合は、Windows の **[プログラムの追加と削除]** または **[プログラムと機能]** ツールではなく次の手順に従うことをお勧めします。

Acronis Backup をアンインストールする手順は、次のとおりです

1. **[スタート]** → **[すべてのプログラム]** → **[Acronis]** → **[Acronis Backup のアンインストール]** の順に選択します。
2. Acronis Backup のログとタスクを削除するには、**[製品のログ、タスク、格納域および構成の設定を削除する]** チェック ボックスをオンにします。後で製品を再インストールする場合は、このチェックボックスをオフのままにします。
3. **[削除]** をクリックします。

5.2 無人アンインストール

Acronis Backup を無人モードでアンインストールするには、**msiexec** ユーティリティを実行します。このユーティリティでは、製品のインストール パッケージ (.msi ファイル) が使用されます。

Acronis Backup エージェント for Windows をアンインストールするときは、機能をアンインストールしてからエージェントをアンインストールし、それから Acronis Backup エージェント コア コンポーネントをアンインストールすることをお勧めします。

Acronis Backup をアンインストールする手順は、次のとおりです。

1. インストール パッケージをフォルダまたはネットワーク共有に取り出します。
2. 次のコマンドを実行します（ここでは、インストール パッケージのロケーションが ¥¥myserver¥share だと仮定します）。

```
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisTrayMonitor.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentWindows.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisBootableComponentsMediaBuilder.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisAgentCore.msi /qb
msiexec /uninstall \\myserver\share\AcronisManagementConsole.msi /qb
```

5.3 Acronis セキュア ゾーンの削除

Acronis Backup をアンインストールしても、Acronis セキュア ゾーンとその内容が影響を受けることはありません。引き続き、ブータブル メディアから起動するときに Acronis セキュア ゾーンからデータをリカバリすることができます。

Acronis セキュア ゾーンを削除する必要がある場合は、エージェントをアンインストールする前に、オペレーティング システムまたはブータブル メディアで次の手順を実行します。

Acronis セキュア ゾーンを削除するには

1. **[アクション]** メニューで **[Acronis セキュア ゾーン管理]** をクリックします。
2. **[Acronis セキュア ゾーン削除]** ウィンドウで、セキュア ゾーンから解放された領域を追加するボリュームを選択し、**[OK]** をクリックします。

複数のボリュームを選択した場合、領域は各パーティションのサイズに比例して分配されます。ボリュームを選択しない場合は、空き領域は未割り当てになります。

[OK] をクリックすると、Acronis Backup によってゾーンの削除が開始されます。

著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2018. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis Secure Zone」は、Acronis International GmbHの登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Instant Restore」、およびAcronis ロゴは、Acronis International GmbHの商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc.の米国およびその他の管轄区域における商標および登録商標です。

Windows および MS-DOS は Microsoft Corporation の登録商標です。

ユーザーズ ガイドに掲載されている商標や著作権は、すべてそれぞれ各社に所有権があります。

著作権者の明示的許可なく本書を修正したものを配布することは禁じられています。

著作権者の事前の許可がない限り、商用目的で書籍の体裁をとる作品または派生的作品を販売させることは禁じられています。

本書は「現状のまま」使用されることを前提としており、商品性の黙示の保証および特定の適合性または非違反性の保証など、すべての明示的もしくは黙示的条件、表示および保証を一切行いません。ただし、この免責条項が法的に無効とされる場合はこの限りではありません。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある license.txt ファイルをご参照ください。ソフトウェアまたはサービスで使用されているサードパーティのコードおよび関連ライセンス条項の最新の一覧については <https://kb.acronis.com/content/7696>（英語）をご参照ください。

Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の 1 つ以上の米国特許によって保護されています。7,047,380 号、7,246,211 号、7,275,139 号、7,281,104 号、7,318,135 号、7,353,355 号、7,366,859 号、7,383,327 号、7,475,282 号、7,603,533 号、7,636,824 号、7,650,473 号、7,721,138 号、7,779,221 号、7,831,789 号、7,836,053 号、7,886,120 号、7,895,403 号、7,934,064 号、7,937,612 号、7,941,510 号、7,949,635 号、7,953,948 号、7,979,690 号、8,005,797 号、8,051,044 号、8,069,320 号、8,073,815 号、8,074,035 号、8,074,276 号、8,145,607 号、8,180,984 号、8,225,133 号、8,261,035 号、8,296,264 号、8,312,259 号、8,347,137 号、8,484,427 号、8,645,748 号、8,732,121 号、8,850,060 号、8,856,927 号、8,996,830 号、9,213,697 号、9,400,886 号、9,424,678 号、9,436,558 号、9,471,441 号、9,501,234 号、および出願中特許。